

# 学校保健

The School Health No.155

(財)日本学校保健会

- これからの学校保健
- 春秋の叙勲者と文部大臣の表彰者
- 全国大会・記念講演・提言
- 全国学校保健協議大会

~~~~~  
会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

年頭所感

## 21世紀に向っての学校保健

(財)日本学校保健会

会 長 東 俊 郎

新しい年を迎え、本年もまたみなさんと共に学校保健活動の充実強化を図りたいと思います。昭和60年は、21世紀に入る意義深い年代の始まりであります。また、臨時教育審議会が発足し国民すべてが、その結果に期待しております。特に学校保健に関係するわれわれは「臨教審」に日頃となえている生命の尊厳性と心身の健康の問題がもりこんでもらえるように機会をとらえて要望していかなければならないと思っております。

学校保健会の今日までの足跡を振り返ってみますと、児童・生徒の心身の健康について、その時その時の問題をとらえてとり組んでまいりました。その成果は、本会が編集した図書、毎年行われてきているセンター的事業の報告会等で発表いたしております。

第34回学校保健研究大会は、首都東京で盛大に開催され、60年度は長崎県で開催されます。

本年も学校保健に関係されている皆様が、ますます、ご健康で活躍されますことをお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



城山から見た桜島

撮影 宮澤康造



## 新春座談会

## これからの学校保健

昭和60年代の発足にあたり、学校保健の進路について、専務理事小栗一好、常任理事榊田桂(横浜市医師会長)、高石昌弘(東大教授)、普及指導小委員長重田精一(前日本医師会常任理事)の各先生にお話をいただきました。司会是小栗先生。

## 生涯保健の中の学校保健について

**小栗** いま教育界を見ると、社会の学歴偏重から良い学校に入ろうとして偏差値を競っている。そのため教育が知育に偏っている。その弊害から、ゆとりのある教育が提唱され、根本的見直しが叫ばれ臨教審が設置された。それに関連して今後の学校保健はどうあるべきかを、お話いただきたい。

**榊田** 昭和33年に学校保健法が公布され、昭和40年代に健康診断のシステム化ができた。そして学校指導要領の総則で健康のことを考えるようになった。50年代に入って、テーマは「知、徳、体の調和のとれた人間性豊かな、生涯にわたって、自らの健康を積極的に増進させる、いわゆるたくましい児童、生徒を育成する」ということで今日まで来た。この流れを踏まえて、これからの活動を進めていきたい。



司会 小栗一好先生

**重田** 10年ほど前からは、保健管理面のみ強化され、保健教育が欠けている傾向があった。私はこの面へのアプローチを考えてきたが、関係者の姿勢にも疑問点がある。

現在は人生80歳というが、いずれも明治、大正生れの人が残っているわけで、いまの子供たちが21世

紀に果してどうなのか心配だ。福田元首相の話を伺うと、少年の頃6kmの道を徒歩通学したという。いまの子供はスポーツをするのにも、その場へ往復するのに車を利用する。やはり、健康教育のあり方を見直すときだと思う。

また、学校保健の歴史的過程の中でも、明治29年の学校衛生顧問会議は、後藤新平氏をはじめ医系出身者ばかりであった。この会議では机や椅子の大きさなども決めたりしたが、就学年齢を6歳に決めたのもこの会議だった。学校保健関係者が教育全般の中に入っていないとは思えないと思う。この点、こんどの臨教審に医系が少ないのは心配である。

それから、児童生徒を全人的にとらえる場合、人格形成についていえば、3歳以前の家庭教育へのアプローチもなくては理解できない、と考えている。

**高石** いまままでのお話の中で、「生涯にわたる積極的な健康づくり」というテーマが一番大切な方向だと思う。「21世紀に現在の子供は大丈夫か」という論議にも同感だ。先日の全国大会の五島教授の提言

(抄録後掲)は、食生活にしぼった話だったが、20歳以下の血清コレステロール値が、米国のそれより高いというのは本当に問題である。

乳幼児期の健康状態を把握するのは父母だから、ライフサイクルの最初を考えると、大人に対する健康教育のあり方を考えるべきであろう。また、学齢期では大部分の子供は元気に生活していて健康についての実感がない。成人し、ある年齢になってから高血圧やがんの心配をするようになる。しかし、それでは遅すぎるので、さきを見越した健康の問題を子供たちに教えるようにしたい。それには、子供たちに自分のお父さん、お母さんの健康のことを考えさせ、小さいときから関心をもたせるような健康教育が必要であり、発想の転換が欲しい。

**榊田** いまお母さん達で、子供の成長、発育に必要な栄養のバランスを考え自分で献立を考え、調理す





る人が極めて僅かしかいない。成長発育に必要な知識の栄養教育は大切だ。

つい先ごろまでは生涯保健というと、障害保険の話かと笑われたが、最近では理解されてきた。生涯教育の中の保健をとりあげると、胎教、つまり出生前の扱いが大切だ。年をとってから健康教育をやって、わかってもらえない。よく物おぼえのわかる子供のうちからの生涯保健教育が重要である。

**高石** いまの中学の保健教育の内容に「呼吸・循環機能の発達」が含まれている。これは呼吸から循環の順になっているのだが、私は意識的に循環から教えるべきだと主張している。胎児のときすでに循環機能が始まっているからである。

それはともかくとして、何といたっても胎児のころからの母親の心のもちようは大きく子供に影響することも重視しなければならない。

**小栗** 現在の保健行政をみると、縦割り、そのうえ年齢的に分断されており、生涯保健が繋がらないという欠点がある。

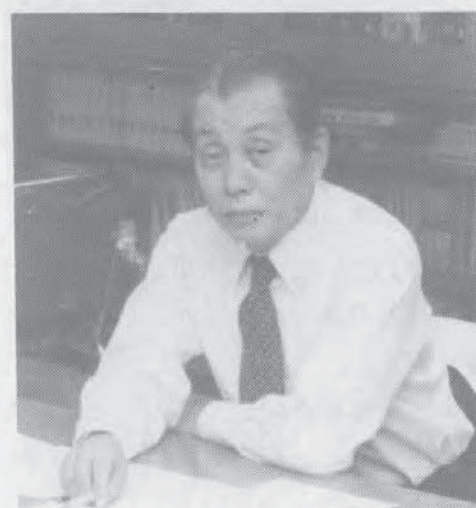
生涯保健を川の治水に例えてみると、学校保健は中流地帯の治水である。川全体の治水を考えると、中流だけでなく水源地や上流地帯のことも考えなければならない。それには、幼児保健や成人保健の担当者と密接に協力し合わなければならないと思う。関係者は生涯保健全体を理解した上で、学校保健を具体的に進めることが必要で、それには家庭や地域

と十分連携していけないと成果は上らないと考えてもらいたい。

### 学校保健委員会の機能について

**榊田** 私は横浜の大会のとき協業ということばを使ったが、これはプロフェッションが協力し合うということだ。話が戻るが、幼稚園で食前の手洗いを教える。一週間もすると3~4人の子が洗わなくなる。なぜ洗わないか聞いてみると、家でお母さんは洗わないよ、という。家庭のしつけが大切だ。

**重田** つまりフィードバックがないといけないということだ。学校保健委員会でそのときのテーマをお母さんたちに連絡し、その後の成果を調べて、身に



重田 精一 先生



つくような指導が大切だ。

私は幼稚園で、お母さんたちに夏休中、子供に「早くしなさい」ということをいわないでください、と指導している。子供たちは非常にゆったりとするそうだ。また、ちゃんと挨拶をするようにしつけなさいとお父さんにも協力させた。2週間もすると身についてくるもので、両親がやらないと駄目だ。

**小栗** しつけというのは、叱ったり、ほめたりして行動を習慣づけようとするが、ほんとうは親を真似して覚えることが多い。

**榑田** 横浜市では、70%が3～4人の核世帯だ。つまり両親と子供1～2人の家庭が圧倒的に多い。家庭での両親の生活態度が子供に反映するわけだ。

性教育も中学、高校だけでやっても意味がない。家庭の日常行動が幼児期の性教育につながるのだ。つまり夫婦である両親の毎日の生活態度が、特に性についてきびしく、またお互に深い愛情が必要だ。西ドイツで感心したことは、性教育は清潔感から始まるということだ。日本では幼児が性器をさわると、汚ないところをさわってはいけないという。西ドイツでは、逆にきれいなところだから汚ない手でさわってはいけない、という。



榑 田 桂 先生

**小栗** 性教育について考える場合、現在は性の科学のことばかりとりあげているが、いま必要なのは性道德のほうだ。

**高石** その両面を総合的にやらないといけない。道徳的のことをいうと、安全の問題についても街で交通信号を無視する大人の多いことには驚く。

**小栗** 真似られる、ということで私自身困っている

のはタバコだ。(笑)

**高石** 教育全体の中で健康の問題を行政サイドでとりあげてもらいたい。それはカリキュラムの中に何を入れるかだが、管理面で行われている営みを、どのように教育に結びつけていくか、を一緒に考えていくことが必要である。ということは教育にたずさわる一般教師の、健康についての知識レベルを向上させることがポイントだ。

**小栗** 教員免許資格を得るための必修課目に学校保健を加えるべきである。

**榑田** 60年代は21世紀へ向っての基礎固めの出発点だ。教育としての学校保健をキャッチフレーズにしたい。これからの保健は質的転換期に入ってきたと思う。それは地域に根ざした教育である。そこには、地域の住民、特に親の生活環境的条件、医学的条件、歴史や文化を含めての環境と、家庭の中で子供の暮らしの場における保健教育の創造が求められる。

**小栗** 文部省も日本医師会もモデル地区を設定してコミュニティ作りを始めている。

**重田** 学校医も意識革新しなくては駄目だ。保健教育はライフサイクルに当る時期の目標をセットして指導する具体性がなくてはならない。それは、学校保健委員会などで、危ないところでは遊ばないこと、といっても1年生と6年生とでは、その程度が違うわけだ。

また、簡単な体験学習をして目標をつけてやるのも良い方法だ。高校生だったら乳児院などで実習をさせてみる。短大生位では特別養護老人ホームなどに行かせてみる。1度行くと、1割位の子は自分から進んで行くようになる。

**高石** 縦に考えるとライフサイクル、横にみると家庭と地域という二つの面がある。縦と横の糸が錦のように織りなす健康のとらえ方がいいと思う。それにはまず、それぞれの条件に応じていくように、学校保健委員会がうまく機能していくようにしたい。絵に書いた餅にならないように。

### 豊かな心と創造性について

**榑田** 新らしい教育理念として科学的活動力の育成を提唱したい。よく日本人には創造性がないと指摘される。学校保健の主題などのことばにも「創造性」というのがよくでてくるが、一体創造性とはどんな



日ことをいうのか。

**小栗** 頭脳を積極的に働かせることだ。

**高石** 私は思考の柔軟性のことと思う。

**榑田** 7～8年前から創造性豊かな、ということばがあるが、子供のときから、これを伸すようにしないといけない。

これからの教育理念には、心身の調和、人間尊重、個性指導、健康の自己防衛、これらのことをどしどし取り入れてもらいたい。

WHO の健康観の中に“良好な社会的健康観”という語があるが、私たちはどのように受けとめるべきか。

**高石** 民族衛生学会で議論されたことだが、われわれの周囲の社会が健全なのか、いや個人が社会に対応する仕方が健全なのか、に分れた。私は個人を中心に考えるべきだと思う。

**榑田** そのとおりと思う。学校保健の大会でいつも主題の中に入る“豊かな心”というのは、その社会的健康観だと思う。

豊かな心を私なりに考えると、芯の強い、すこしのことにへこたれない、美しいものに素直に感動する、などを60年代の健康観として子供たちに植え付けたいと思う。そして学校保健の終局の目的は生命尊重にあると思う。いまほど安易に生命を傷つける報道の多い時代はない。健康教育を通して生命の大切さを見直させなくてはならない。

**高石** 豊かな心は望ましい人間関係の中で素直に育てば、どんな子にもはぐくまれるものだと思う。しかし、人間社会のしがらみがあり、だんだん壁にぶつかりゆがんでいく子もいる。本来は素直に育つべき潜在力を、周囲の大人が、良い心理的環境に作ってやるべきだと思う。

**重田** それには自己責任と地域の連帯が柱となるが、地域連帯というと人と人とのつながりだけを考えがちだが、地域の環境も考えて行動しなくてはならない。例えば道路のゴミや空罐などを自分の家と関係ない、と無視するようでは連帯感は生れてこない。子供たちは8時間位は学校にいても、残りは地域で生活しているのだから。

**榑田** 健康教育の最前線の担い手である教師には、その適性が必要と思うがどうだろうか。60年代のプロフェッションとしての適性の第一は健康だ。つぎ

には動作に活気があって、なおかつ物静なことが望まれる。私はいつもいっていることだが「和顔愛語」ということばを教育者の理念としてほしい。そして子供の発育についての保健知識をもってもらいたい。情緒の安定感は絶対に必要だし、同時に臨機応変の融通性も求められるだろう。

**高石** きめられた知識を押しつけるだけだと自由な発想がなくなる。ものにとらわれない自由な発想が望ましい。しかし、自由をはきちがえてのルール違反ではなく、人間社会のルールを守っての考え方の自由、技術革新を土台にしての創造性を求めたい。



高 石 昌 弘 先生

**重田** 専門家の話を聞くと、子供は物を作っているときよりも、こわしているときのほうが目が輝いているという。材料を与えて勝手にしろという作れない子がいる。健康の問題でも与えられた条件にしか適応できない子がふえている。自分のほうから自由に考えていく子ができるようにしたい。

**小栗** 創造性というのは人間の特性だね。

**榑田** 従来は創造性というものの説明に具体性が欠けていた。これを議論していくべきだ。

それにしても、従来、画一性で創造性の世界とは無縁な日本人も、最近、教育制度、特に子供たちの学校生活のゆがみに対しても非難が集中し、臨教審で検討中ときく。私は少なくとも科学技術の領域においては、創造的努力が見うけられることはよろこばしいことだ。

**小栗** 最後に臨教審に要望したいのは、文部省や厚生省の立場からだけでなく、国民全般からみてほしい。保健行政をバラバラにしないで、生涯保健に連なる組織づくりをしてもらいたいと思う。



# 昭 和 59 年 度 叙 勲 され た 学 校 保 健 の 功 労 者

## 《 春 》

## 《 秋 》

### ◎学 校 医

#### <旭 五>

永井 弘之 (富山県) 有馬 十郎 (鹿児島県)

#### <瑞 五>

金井征三郎 (東京都) 小暮六郎平 (埼玉県)

日谷トナコ (広島県) 吉川 芳穂 (長野県)

### ◎学校歯科医

#### <旭 五>

朝波 惣一 (静岡県) 井出 兼次 (神奈川県)

小野 敬晃 (福岡県)

#### <瑞 五>

大澤 實 (茨城県) 小川 潜 (佐賀県)

吉川 義人 (東京都) 椎原 誠治 (鹿児島県)

出羽卓次郎 (千葉県) 中林 清 (埼玉県)

日野 弘 (愛媛県)

#### <藍 綬>

宮脇 祖順 (大阪府)

### ◎学校薬剤師

#### <旭 五>

森 廣吉 (愛知県)

### ◎学 校 医

#### <旭 五>

花輪 吉夫 (埼玉県) 阿部 保信 (青森県)

宇都宮信雄 (福岡県)

#### <瑞 五>

久田 綏勲 (東京都) 松生 朝子 (三重県)

山村 好雄 (茨城県) 黒田 正信 (千葉県)

近藤捨太郎 (滋賀県) 別府 審一 (大阪府)

### ◎学校歯科医

#### <旭 五>

大羽 武 (静岡県) 島田 榮吉 (富山県)

#### <瑞 五>

井原 泰次 (埼玉県) 早乙女 篤 (山梨県)

高橋 進 (愛媛県) 中尾 文吉 (広島県)

中村 源七 (神奈川県) 古屋 啓作 (山梨県)

山瀬 英雄 (東京都)

### ◎学校薬剤師

#### <瑞 五>

佐藤 一郎 (大阪府) 白男川政次郎 (鹿児島県)

#### <藍 綬>

種村 玄彦 (茨城県)

## 第33回 全国学校保健研究大会

## 文部大臣表彰の個人、学校、団体

### ◎学 校 医 32名

中矢 元近 (北海道) 対馬 秀雄 (青森県) 菅 健三 (岩手県) 鎌田 常郎 (宮城県)

藤倉 宮雄 (山形県) 春山 清 (福島県) 松本 兼文 (栃木県) 重田 精一 (群馬県)

阿部 光 (群馬県) 細沼 靖 (埼玉県) 曾根田義男 (東京都) 富田 龍夫 (東京都)

隈元 國夫 (神奈川県) 鈴木 啓三 (新潟県) 竹居 茂樹 (山梨県) 細井 志成 (長野県)

長屋 幸郎 (愛知県) 清水 富生 (三重県) 小田 侃 (京都府) 北田 康一 (大阪府)

大西 捨巳 (兵庫県) 金川 頼央 (和歌山県) 石原 要博 (島根県) 牛尾剛一郎 (広島県)



岡林 茂敏(高知県) 重松 安(福岡県) 山口 梅雄(佐賀県) 武岡 春雄(佐賀県)  
江田不二夫(長崎県) 三浦 洋一(熊本県) 甲斐田 晃(熊本県) 川名 実徳(宮崎県)

## ◎学校歯科医 24名

横山 勇(北海道) 馬場千代治(岩手県) 遠藤 一秋(秋田県) 鶴岡 武一(東京都)  
末廣 力雄(東京都) 高橋 一夫(東京都) 中根 實(東京都) 木津喜 廣(東京都)  
村上 仁信(神奈川県) 大竹 節二(静岡県) 高橋 一男(愛知県) 速水 昭介(滋賀県)  
奥野 喜一(大阪府) 大崎 恭(大阪府) 松本 治男(鳥取県) 井奥 一夫(岡山県)  
増井 寅男(広島県) 小倉 正善(香川県) 竹本 誠一(高知県) 有吉 茂實(福岡県)  
神戸 明(長崎県) 柳川 義兼(大分県) 沖 憲六(宮崎県) 横山 清理(鹿児島県)

## ◎学校薬剤師 12名

一宮 庸一(北海道) 橋本 和雄(秋田県) 佐藤 栄(茨城県) 間渕智恵子(千葉県)  
高士 利男(神奈川県) 飯野 宗久(富山県) 林 茂(岐阜県) 人長 有平(京都府)  
大内 久(兵庫県) 安田 忠男(奈良県) 岩橋 雅夫(福岡県) 長嶺三千夫(宮崎県)

## ◎校長 4名

大島 守男(埼玉県) 大庭 裕(神奈川県) 石井 一(兵庫県) 住友 一美(徳島県)

## ◎養護教諭 5名

飯島 愛子(茨城県) 名倉美智江(静岡県) 彦坂 良江(愛知県) 西口 一子(大分県)  
喜納スミ子(沖縄県)

## ◎学校・団体 7学校・2団体

青森県三戸郡福地村立福田小学校 福島県会津若松市立城西小学校 石川県志賀町立上熊野小学校  
福井県武生市坂口小学校 和歌山県金屋町立鳥屋城小学校 愛媛県砥部町立宮内小学校  
鹿児島県串木野市照島小学校 広島県安芸地区学校保健会 山口県山口市学校保健会

## ◎学校安全 校長 2名

守屋 正治(千葉県) 當眞 哲雄(沖縄県)

## ◎学校安全 学校 18名

栃木県河内町立田原中学校 富山県庄川町外一ヶ市中学校組合立庄川中学校  
福井県鯖江市立神明小学校 長野県諏訪市立中洲小学校 岐阜県土岐市立駄知中学校  
愛知県名古屋市立船方小学校 滋賀県米原町立醒井小学校 京都府八幡市立橋本小学校  
奈良県橿原市畝傍南幼稚園 島根県弥栄村立安城小学校 岡山県立新見北高等学校  
山口県秋芳町立秋吉小学校 徳島県三好町立三好中学校 香川県豊浜町立豊浜小学校  
愛媛県大三島町立大三島中学校 福岡県飯塚市立飯塚小学校 長崎県瑞穂町立西郷小学校  
鹿児島県阿久根市立折多小学校



# 第34回全国学校保健研究大会

本年度の大会は、去る11月1・2日、東京の武道館他で「すべての子供たちに生涯にわたる健康を」——自から進んで健康づくりを实践する子供たちの育成——を標題として開催された。

## 特別講演 暮らしの再発見

NHKアナウンサー

鈴木 健 二

### 自分をみつめよう

ある大学祭で「ドラム缶でおなじみの鈴木さん」と紹介されたことがある。ブラウン管の間違いだ、人には思わぬ間違いがある。自分は一所懸命にやっているつもりでも、自分の思う方向にいかないことも多い。しかし人間は、つぎには幸福がくると信じて理想に近づくようと、新しい意欲がおこってくるものである。それだから今日のような集会の意義があるものとする。

だが、往々にして自分の思うとおりにいかないと、その責任を他に転嫁してしまう傾向がある。それだと教育問題は解決しない。まず、自分自身がどうであるかを考えたい。子供は親がいうようにはしないが、親のすることはするものである。

### こどもは一人一人ちがう

皆さんは自分が正しいと思ひこんでいないだろうか。自分は保健について、医学について、正しい知識をもっている、と信じすぎてはいないだろうか。もしかしたら誤ってはいないか、という謙虚さがないと真の教育はできないのではないだろうか。

子供一人一人に個性がある。個人が尊重されなければならない時代である。そして人間の体は一人一人全部違う。そこに保健教育のむずかしさがある。

### 小学校の体験

私は東京の下町の小学校で6年間を過した。その6年間ずっと木村先生が担任であった。クラスにS君とY君という精薄の子がいた。Y君は体育の時間だけ活躍する。それはいつも騎馬戦をやり、先生とY君は最後に一騎打となり先生が下になり負けた。先生はY君にまた強くなったね、と肩をたたく。卒業のときY君は無欠席で賞状を貰った。Y君は体育の時間だけのために通学したのである。

S君は卒業までに片仮名で住所と名前が書けることが目標だった。卒業するときサイン帖を交換した。S君は漢字で住所と名前を書いてくれた。私はそのサイン帖を大切にもっている。

5年前、木村先生が亡くなられたとき、先生の死を聞いて飛んできて、先生の柩を担ったのはS君とY君だった。

教育というものには、長い時間がかかるのである。いまの教育には慌しさを感じず。また、教育というものは教師の人格であると思う。

### 教育の基本は

最近胎児が母親の腹の中で、どうやっているかがわかってきた。そして人間の一生には三度目ざめるときがあるといわれている。それは生後1時間、つぎに歩き始めの1歳ごろ、そして12、13歳ごろといわれる。

胎児は母親の血流音を子守唄にして育つ。どんなに泣いている赤ちゃんも、血流音の録音を聞かせると泣き止むのはそのためだ。いま幼児教育が叫ばれているが、私はそれでは遅いと思う。保健教育はマイナス1歳児教育から始めよ、といいたい。

私は教師でないが、昔1回だけ教えたことがある。終戦後すぐ弘前でアメリカの神父に協力して3歳から13歳までの孤児68人と暮した。その後東京へ戻ってから、そのときの子供が2人、大阪の工場へ勤めることとなり、その途中訪ねてきた。旅費と手紙を持たせて東京駅で頑張るんだよ、と行って見送った。その後暫らくして関西のある警察から、貴方の手紙を持った子を窃盗で保護している、という連絡があった。行って見ると名前は違うが同じ子だった。どうして偽名を使うのか、といたら「ご免なさい、先生にいていたのが偽なのです」という。

私はそれ以来、人間不信になっていた。その後20年位たってから、ある重症の心身障害児の施設に行った。そのとき会議室で若い保母さん達が、どうしたら子供たちが1人でお手洗をすることができるかと研究していた。重症心身障害児に1人でもお手洗をさせることは、人類が宇宙を征服するよりも難事業なのである。それを保母さん達は、ほんの少しの可能性を信じて育てていた。

教わったことはすぐ忘れる。しかし、小さいときに覚えたものは忘れない。これが教育の本質である。現在の教育が教えることにのみ集中しすぎ、育てることを忘れかけているのは、大きな欠陥ではないだろうか。



**教育とは心を開きあうこと**

私たちの日常、暮しの中での挨拶、お早よう、戴きます。ご馳走さま、なども、そのことばの意味を正しく理解して使い、ケジメをつけることが大切である。挨拶という字は、開く、と迫る、という意味である。いま、教育は肉体的なことではなく心の問題といわれている。この最初の糸口は、学校でも家庭でもお互に挨拶し合うことである。

いまは何でも「どうも」ですましている。「有難う

ございます」ということばをもっといおうではないか。人間がほんとうに感動したことばは「有難う」である。明日から、いや今日から正しい挨拶を実践し、いつも何かを発展させていく、親であり、教師であって欲しい。

子供達は美しい魂をもっている。自分が教師だからという以前に、人間として美しい魂を分ち合って、美しい人生を過していこう、と考えていただきたい。

**提 言**

座 長 国立公衆衛生院母性小児衛生学部長  
東京大学教授

高石 昌弘

提言者 国立公衆衛生院労働衛生学部長

横山 栄二

東京都千代田区立練成中学校長

原島 信義

東海大学医学部教授・同附属病院長

五島雄一郎

座長 生涯保健という立場で、われわれ学校保健関係者は大きい役割を負っている。21世紀を前にして新しい方向の教育論議が盛んになってきているが、教育の中で従来は軽じられていた健康という課題の重要性を訴えたい。

まず、子供の健康に係る基本的な考え方について、環境の保持。その中で生活する子供の心と体をどう考えるか、3人の専門家の提言をききたい。

**健康と環境**

横山 栄二

環境とは「人及び生物をとりまき、それと相互作用を及ぼしあうところの外界」(広辞苑)である。一方、人体の化学成分や生理機能は、外環境が変化しても“調節”と“適応”という反応で、極めて狭い範囲で変動しつつ安定している。これを恒常性といい、健康とは、この恒常性が維持されている状態と考えられる。

健康と疾病とは謂わば連続的で、健康と疾病の間には、代償作用で正常機能を維持している状態である。

健康を維持するための環境の質は、その人その時代、地域における価値観によって定まる。したがって国の環境基準は、その国の行政的表現と考えられる。

人間の集団の中には、環境に対して感受性の高い人達(ハイリスク集団)がいる。その原因は、発育過程、栄養条件、罹患、遺伝など考えられるが、これの認識と対応は、これからの環境と健康の分野における重要な問題である。

**心の健康と学校経営**

原島 信義

戦後40年の科学技術の進歩は目を見はるばかりである。現在の日本は恵まれすぎていておごりたかぶっている、と反省すべきだ。

学校経営の基本は教育目標の設定と、その具現化である。知性豊かな人、思いやりのある人、最後までや

りぬく人、心身ともに健康な人、広い人間愛をもった人などを、わかりやすく掲げたい。

さきごろの文部省の調査で、公共心については大きい子供ほど無くなっている。これは大人が種をまいているのではなからうか。学ぶ、ということは、真似ることからきている。

子供、親、学校、地域がそれぞれの立場で取組むことが望まれる。

心豊かな子供に育つためには、皆がもっと自然を大切にすることだ。

会話のない家庭が多くなってきている。子供には、みずみずしい感受性がある。それを少しでも引きだしていきたい。そのためには大人たちがもっと子供に近づく努力をしてもらいたい。

**生涯と健康**

五島雄一郎

成人病は子供のときからの食生活が影響している。子供の食生活は両親の影響を著しく受けるので、健康な子供を育てる為には、両親が食生活に関心をもつ必要がある。

過去20年間、10年毎に日本人のコレステロールを全国的規模で調べた結果、その平均値は14mgも増加し、とくに20歳以下の若年層に著しい。しかも1970年代のアメリカ人と比較すると、20歳以下では日本人の方が多い。この原因は食生活の洋風化と、栄養に対する母親の認識不足が指摘できる。また、残食量の少ない献立にする学校給食の影響も無視できない。

アメリカでは20年間に25%も心筋硬塞が減少しているのに、日本のそれは4倍弱に増加している。その発病も30~40歳代の若年層が増加しているのは問題である。

何でも食べる、バランスのとれた食生活を含めた、日常の生活指導を養護教諭や栄養士などに指導する、専門の学校医の養成が必要である。



## 学校保健会事務局だより

# 昭 和 59 年 度 全国学校保健協議大会の報告

今年度の上記大会は、11月1日(16:00~18:00)東京北の丸公園、科学技術館で開催、九州大会をはじめ、全国の各ブロック大会で協議された議題を国及び臨時教育審議会に対する要望事項と、各保健会が自らとり組む研究課題について協議した。

最初に東会長から、「わが国、児童生徒の健康の増進は、政府とわれわれとが心を通じあって努力することが大切である。忌憚のない意見を聞かせてもらいたい」との挨拶があった。続いて、文部省の下宮進学校保健課長から、昨年度、東会長の名のもとに文部省に提出した要望事項について、各項目ごとに懇切な説明があった。なお、昨年度の研究課題とその処理については、横浜市学校保健会をはじめ、27の保健会の紙上報告の概要について、下田 巧常務理事から説明があった。「さらに、問題を整理し、学校保健センター的事業の調査研究事業で検討する場合もある」とのことであった。

### 議長団

|              |            |
|--------------|------------|
| 日本学校保健会常務理事  | 榊 田 桂      |
| 京都府学校保健連合会会長 | 古 川 太 一    |
| 東京都学校保健連合会会長 | 和久井 健 三    |
| 長崎県学校保健会会長   | 城 谷 勝 明    |
| 加盟団体の代表者     | …………… 206名 |

## 要 望 事 項

### 1. 児童生徒の健康診断の充実強化

- (1) 児童生徒の心臓検診制度の確立について  
各地方自治体において、心電図等の検査を積極的に実施しているところもあるが、全児童生徒に及ぶために、学校保健法を改正し、財政措置を講ぜられるよう要望します。特に僻地における児童生徒の心臓検診については、特別の予算措置を講ぜられたい。

### 2. 学校医・学校歯科医・学校薬剤師の待遇改善

- (1) 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の増額及び公務災害補償の基準の改訂を要望します。

### 3. 教職員の学校保健に関する資質の向上と充実

- (1) 教職員に保健・安全に関する教育を教育職員の基礎的教養とするために、免許状取得の必須条件とするよう免許法の改正を要望します。  
(2) 教職員の「学校保健・学校安全」に関する指

導の為、校長、保健主事等に対してブロック毎の研修会等の開催と中央での研修が地方において伝達研修会等のできるよう措置されたい。

- (3) 養護教諭の早急に全校配置と特殊教育諸学校並びに、大規模校への複数配置を要望します。  
(4) 養護教諭の実技講習の充実をはかられたい。  
(5) 養護教諭の養成機関として、国立4年課程の増設と既設の2年課程について、4年課程に移行されるよう措置されたい。

### 4. 災害共済給付額の改訂

- (1) 学校教育の円滑な実施をはかるため、災害共済給付額の引き上げについて、さらに努力されるとともに障害見舞金の範囲を児童生徒に適するようその拡大について措置されるよう要望します。

### 5. 学校保健の充実強化

討議の結果別紙要望書にまとめました。実現方要望します。

## 研 究 課 題

### 1. 児童生徒等の健康診断の充実強化

- (1) 視力検査の適切な検査方法について検討  
(2) 平衡機能検査の実施について、その具体的な方法を検討  
(3) 精神衛生(心の健康)の充実  
各保健会等において研究校を設ける等による研究課題(児童生徒に対する指導、相談活動、指導手引書の作成等)  
(4) むし歯予防指導の強化  
むし歯予防指導をより効果的にするため組織活動を重視し、その活発化の方策の研究

### 2. 障害をもつ児童生徒の保健管理

- (1) 障害をもつ児童生徒の保健管理  
(2) 重症心疾患児等(突然死をおこすおそれのある者)の普通学級内での取扱い方(学校現場における研究等)

### 3. 特殊教育諸学校における教職員の健康管理の充実(学校現場における実態研究)

### 4. 保健活動の強化

(学校保健組織活動、一般教職員への理解高揚、健康相談活動、学校保健委員会活動等の実践的研究)

### 5. 学校環境の衛生及び安全の強化

- (1) 学校施設・設備の安全管理について  
(各学校毎の安全点検・基準等についての実践的研究)





## 臨時教育審議会に対して学校保健の充実強化に関する要望書

学校保健協議大会で、議長団より、現在審議中の臨教審に対する要望書の提案があり、全員が異議なく賛成、可決した。その後、12月4日、東会長、小栗専務理事と事務局長が下記の要望書を臨教審に提出した。

### 学校保健の充実強化に関する要望書

21世紀を担う青少年の教育に当っては創造的な能力豊かな人間関係の育成と共に、強くたくましい人間造りこそ緊要であります。

幼児・児童・生徒等の時期は人間の生涯を通しての健康生活における極めて重要なときであり、その指導に当っては学校家庭及び地域社会との緊密な連携を必須とします。

11月1日われわれ各都道府県の関係者が一堂に会し幼児・児童・生徒の健康問題に関して協議を重ねた結果、現状には遺憾の点が多いので、現在審議されつつあります臨時教育審議会における教育改革に当り、幼児・児童・生徒等の健康安全教育に関する充実のため、次の事項が実現されますように要望します。

### 要 望 事 項

#### 1. 教育職員の資質の向上

○教育職員の養成において教職に関する専門科目の中で「健康・安全に関する知識」を必修にするとともに、各都道府県毎に教職員の健康安全に関する資質の向上を継続的に図ること。

#### 2. 健康・安全に関する教育の充実

○教育課程の基準改訂に当っては、小学校全学年において健康安全に関する教育を教科として履修するようにされたい。

#### 3. 健康・安全に関する管理の充実

○児童・生徒等の健康安全生活の保持増進のため、学校保健関係者が積極的に保健管理指導のできるよう改善されたい。

#### 4. 学校・家庭・地域社会の連携強化

○家庭・地域社会に対して幼児・児童・生徒等の健康安全に関する指導の強化を図ること。  
○幼児保健と学校保健の連携強化を図ること。

昭和59年11月1日

財団法人 日本学校保健会会長 東 俊 郎



学校検尿のすべて 頒価600円  
 姿勢・運動・乗物酔いと平衡機能 頒価800円  
 学校保健の動向 昭和59年度版 頒価2200円

申込み先：  
 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-13  
 財団法人 日本学校保健会  
 電話 03(501) 3 7 8 5 番

どちらかひとつをお選びください。

エームスの尿潜血・蛋白質同時検査試験紙。



キッドステックスⅢ

マコンビステックスⅢ

マイルス・三共株式会社

エームス編集部

三共株式会社



# 歯ブラシはお口に合せて選びましょう。



推薦 日本学校保健会

**バネット** ライオン **ジュニア**

ライオン株式会社

## 育ちざかりのひと粒!

体力をつけ健康を保つ

# カワイ肝油ドロップ



製造発売元 **河合製薬株式会社** 東京都中野区新井2-51-8

清潔で安全な学校清掃管理は

教室・廊下(木床)に

体育館(木床)に

**ペンギン**  
SCシステムで!



- SC  
フロアキーピング
- 塗るだけでピカピカ。
  - 滑らないので安全。
  - 水性タイプで清潔。



- SCジム  
コンディショナー
- ウレタンコートされた木床の手入れに。(ダストコントロール)

**ペンギンワックス株式会社**  
 大阪市東成区東中本3-10-14 (〒537) TEL.06 (976) 1451  
 <札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・高松・福岡>

(推薦: 日本学校保健会)

※型録ご希望の方は、SCS係宛お申し込みください。

## “ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌 消毒用 **シャボネット** 石鹼液 **ふも**

日本学校保健会推せん No.573

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹼液で、手洗いのあといや～な臭いが残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ化学工業株式会社 TEL (06) 797-2525 サラヤケミカル株式会社 TEL (03) 472-1521